



ビジターセンターからの おしらせ

【自然教室】安全登山講座を開催しました

2025年3月15日、「奥多摩登山者のための遭難事例と対応」を開催しました。講師には青梅警察署山岳救助隊を招き、最近の遭難事故件数や実際の遭難救助活動などのお話の後、ツエルトや登山アプリなどの実習も行いました。参加者47名は講座で感じたことを「安全登山宣言」として書くことでより意識が高まったようでした。



山岳救助隊による講演



参加者による安全登山宣言

氷川溪谷自然環境調査 報告書 近日発行

氷川溪谷の定点調査（同じ場所を四季を通じて調べ、生きものの種類や生息状況を把握すること）の報告書を作成中です。

これによって判明したデータは今後レッドデータなどの保全活動に活かす予定です。いつの間にかいなくなっていた、ことがないよう報告書発行後も調査は続けます。



ちちたまかい ニュース

五十人平（旧奥多摩小屋跡地）に野営場オープン！

石尾根の五十人平（旧奥多摩小屋周辺）にあった野営場は奥多摩小屋の廃止とともに惜しまれながら平成31年（2019年）に閉鎖されました。閉鎖後は再開を切望する声が絶えませんでした。6年が経過した令和7年（2025年）、野営場の再開計画が進行しています。登山者の安全確保と自然環境の保全のために配慮された設備を備えてリニューアルオープン予定です。お楽しみに！



解体前の旧奥多摩小屋



旧野営場



リニューアルオープンに向け整備中の野営場



奥多摩ビジターセンター
〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 171-1
TEL: 0428-83-2037
URL: <https://www.ces-net.jp/okutamavc/>
指定管理者: (株) 自然教育研究センター (略称 CES)

3月31日発行



X



Follow me!



Facebook



You Tube



第14号 奥多摩ビジターセンター通信

季刊

おくたん

2025
春

うららかな春の花の、したたかな生存戦略。



おくたんでは、奥多摩を探求し、奥多摩を堪能していただくための情報をお届けします。

春の花 生存戦略

春の奥多摩では、色とりどりの花を見ることができます。

花は、植物にとっての生殖器にあたり、次世代に命をつなぐための重要な器官。

そこには、麗らかな見た目からは想像できない、生きる工夫がつまっています。

奥多摩の、春の花の生存戦略を覗いてみましょう。

戦略その1 春色って、何色？

「♪春色の汽車に乗って 海に連れて行ってよ」と、有名な歌がありますが、あなたの思う「春色」とは、何色でしょうか？

多くの人は、桜色を連想するかもしれませんが、しかし、奥多摩ビジターセンタースタッフが氷川渓谷で調べた結果、最も多い花の色は黄色でした。

花の色の鍵を握るのは、昆虫。昆虫がいなくなる冬が明け、早春、最も早く活動を始める昆虫は、ハエやアブの仲間です。

昆虫に花粉を運んでもらう花では、いかに昆虫に来てもらうかが重要。

彼らの目からは、黄色が最も見えやすい色です。

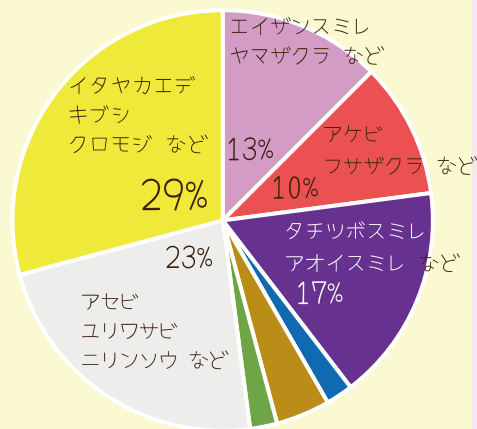
そのため、ハエやアブを誘引すべく黄色の花が多くなるのです。



▲アブラチャン



▲ヤマブキ



▲2・3月の
氷川渓谷の花の色（種別）
奥多摩ビジターセンター調べ

春本番となる4月には、多くの種類の昆虫が目覚めます。

桜色や紫色がよく見える目を持つのは、チョウの仲間。気温が10℃を越えてチョウが活動する季節になると、花々はチョウに向かってアピールできる桜色や紫色の花も、増えてきます。

季節を彩る花の色は、実は、昆虫が決めていたと言えるかもしれません。

参考・引用
赤いスイートピー，松本隆，1990
日本植物生理学会．”早春に黄色い花が多い理由”．2011年10月5日．https://jspp.org/hiroba/q_and_a/detail.html?id=2524

戦略その2 儚い？春の妖精

多くの春の花は、花が終わると葉が大きくなり、実をつけ種をつけ…花以外の姿で地上に続けます。しかし、一部の春の花には、春過ぎると地上から姿を消してしまうものがあります。

彼らは「スプリングエフェメラル (Spring ephemeral)」。

スプリングエフェメラルの代表として、海沢カタクリ山や御前山の春を彩るカタクリがあげられます。

雪解け後1番に花を咲かせ、春が進むと花が終わり、葉だけになります。

その後地上部は枯れますが、死んでしまったわけではありません。根の状態で、地下で生きています。

春が深まると多くの花が咲くため、あの花、この花と、花粉を運ぶ昆虫も目移りしてしまいます。

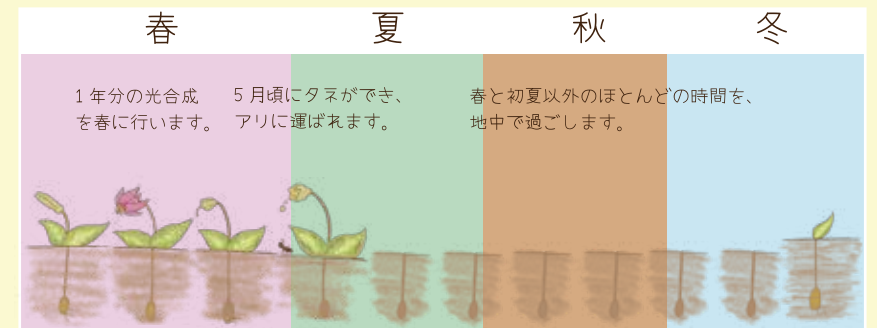
スプリングエフェメラルはいち早く咲くことで、その時にいる昆虫をひとり占めすることができます。

その後は余計な力を使わないよう根の状態で休眠し、次の早春を待つのです。

儚いと思いきや、辛抱強くたくましい一面も持っています。



▲カタクリ



▲カタクリの1年

戦略その3 花の形の駆け引き

花が昆虫を呼ぶ際、どんな昆虫も歓迎しているわけではありません。

小さなアリ等は、花粉を運ばずに蜜だけ食べるため、植物にとって不利益。

そこで春の植物には、口の長い、花粉を運んでくれる昆虫にしか蜜を渡さないように、面長の花を咲かせるものもいます。

口の長い昆虫が、思いっきり顔を近づけて口を伸ばすことで、ようやく蜜に届く作りになっています。

花に顔を近づけた際に花粉が付いて、別の花へ花粉を運んでもらうのです。

しかし、時には距（花の長い部分）を食い破られ、

蜜をただ食いされることも。

小さな世界を覗いてみると、花と虫の高度な駆け引きが見られます。

氷川渓谷遊歩道や登計トレイルなどで観察してみましょう。

▼タチツボスミレ



※食い破られた距



▲ミヤマキケマン

POINT

麗らかな春の奥多摩を彩る春の花景色。ぐっと近寄って観察するとしたたかな多様な戦略が見えました。

春の花は、昆虫と関わり合いながら、次世代へと命をつなぐため、美しく咲いています。

美しくも逞しい奥多摩の花を、ぜひ見に来てください。